

虹いろ



Line Up

- ・平成 29 年度 全体の事業計画（街の風景を確かめながら・・・）
- ・グループホーム「太陽Ⅰ・Ⅱ他」建設に向けて
- ・A 型事業所 稼働開始 ・蓑崎事業所「Lua（ルア）」開所について
- ・日野春學舎での「KOMOREBI」展集約作業及び「アール・ブリュット in 山梨」その他

21

平成 29 年（2017）
9 月発行 21 号



平成29年度 全体の事業計画 (街の風景を確かめながら…)

法人本部 小泉 晃彦

平成29年度が始まって、5か月が過ぎようとしています。毎日が慌ただしく過ぎていく中、集まり、声を掛け合いながら様々な事業や取り組みを進めている姿が、よく目につくようになりました。何が正しいか答えがないうち中、一つひとつを確かめながらの毎日で、嬉しさや苦しさも織り交ぜながらですが、何かを生み出そうとしている風景がそこには確かにあります。

日野春小学校を借りてから早4年が過ぎました。「日野春學舎構想」も始まり、私たちが、この地域で地域の方々と何を生み出していくか？試行錯誤を繰り返した取り組みもそろそろ第2ステージです。「ブリッジスクール」も中高生の取り組みが始まり、農福連携も発展し「キッチンのはら」が始まりました。アートの取り組みも今年は「ナントプロジェクト」に学び、来年は、いよいよスウェーデンでのアールブリュット展に全国の

仲間とチャレンジです。福祉事業も、のほら樂団の立ち上げからA型事業所への取り組みや、自立のための生活拠点「LUA（ルア）」の開始。長年の夢であった重度、高齢者の生活拠点「太陽」の設立準備等多くの取り組みが動き出しています。

これからを想い、職員全体で目標に向かって動いている時にあらためて、どこか幸せを感じる瞬間があります。どうか、焦らず、背伸びせず日常の中の風景を感じながら29年度を全体の力で、良い1年にしていけたらと思います。

グループホーム「太陽」・「他」
建設に向けて
福祉事業部 中嶋 浩

最初の構想から7年。星の里の入所者の削減と、利用者一人ひとりのニーズになるべく合わせられるようにと、新規のグループホームの建設を準備してきたことが、いよいよ現実のものとなりつつあります。

この間、様々な意見交換を繰り返し、建設予定地の選定に四苦八苦し、建物の構想そのものを見直したりと、今になって思えば懐かしさがこみ上げてくるものもあります。

平成30年度からの報酬改定に伴う制度改正もにらんで、介護保険にも対応すべく、新規の通所施設（生活介護事業所）を併設することも、これまでの議論の中で出てきたものでした。

現在の進捗状況は、計画予定地の農地転用手続きと、北杜市まちづくり条例に伴う開発申請を行っています。さらにこれに伴う形で、独立行政法人・福祉医療機構への融資申込を終えたところです。

さらに、今回の計画では銀行からの協調融資も合わせて考えているところです。補助金の活用も必要に応じて、その都度検討していくつもりです。

早ければ10月頃には造成工事に入り、本体の建築工事を来年の春頃を目途に着工、31年の春、開設を目指します。

皆様方には大変お待たせを致しましたが、もう暫くお待ち頂きたいと存じます。

A型事業所 稼働開始

多機能型事業所 のはら楽団

小林 洋子

「A型事業所ってどんな事業所？」とよく聞かれます。就労継続A型事業所はサービスを利用しながら雇用契約を締結し、働く場所を提供する事業所です。4月から10名定員のところ、4名の方が働いています。給食センター（キッチンのはら）・・・2名、豆腐工房・・・1名、総務・農場・・・1名がそれぞれの得意なことを生かしながら頑張っています。事業所は自らの課題を抱え、仕事の切り出しや生産効率をあげるには・・・とスタッフ一同、毎日頭を抱えています。そんな中、毎日笑顔が絶えず、失敗も笑い飛ばすほどの明るさとチームワークがあります。まだまだ課題は多いのはら楽団のA型事業所ですが、みんな同じ方向を向き明るく目標に向かって進んでいきたいと思っています。

葦崎事業所

Lu a（ルア）開所について

生活支援センター 陽だまり

中村 和稔

『こまったな』というのが最初の感想です。4月に人事異動があり、サービス管理責任者として最初の仕事で、葦崎事業所の開設でした。わからないことばかりでしたが、力を貸してくれた上司や、同僚、後輩職員、グループホームに関わってくれている世話人さん。みなさんの協力で何とかしずつ思い描いた事業所に近づいています。この数カ月、目の回るような忙しさでしたが、信頼できる職員と一緒に葦崎事業所の開設に携われたことは、自分の中で学ぶことの多い良い経験だったと感じます。南部グループホーム担当職員の描いた看板と事業所テーマを紹介させて下さい。『ルア』とは、ポルトガル語で“月”という意味です。ポルトガル語は日本から見ると地球の反対側にあるブラジルの公用語でもあります。世界中どこにいても月は見え

ます。でも、月の模様は、場所や見方によって様々な見え方があります。うさぎ、カニ、女性の横顔など、どう見るか、どういう見方をするか、それは人それぞれ、障がいを持つ方々に対しても同じことが言えるのではないのでしょうか？

私たちは様々な方向から、それぞれにできることをしながら暗闇を照らし、道を示す、穏やかな月のように、みなさんのお手伝いをしていければと思います。

さあ、みなさんにはこの看板に何をみるでしょう？』





日野春學舎での「KOMORE BI」展集約作業及び「アール・ブリュット in 山梨」

企画事業部 窪川 敦之

平成29年6月半ば、日野春學舎（旧日野春小学校）の2階に日本全国から優れたアール・ブリュット作品が集められました。その数42作家^{1,000}作品以上。目的は、この秋にフランスで開催される「2017ジャパン・ナントプロジェクト」という国を挙げたプロジェクトの一環として日本のアール・ブリュットを紹介する「KOMORE BI」展の出展準備のためです。

アール・ブリュットとは、フランス語で「生の芸術」のこと。正規の美術教育を受けず、自らの内面から湧き出る衝動を絵画や立体として表現したものです。日本にも、この分野で世界的に注目される作家や作品が多数あります。ナントでは、長崎の瑞宝太鼓や島根の石見神楽とともに、日本の障がい者文化芸術を代表する優れたアートとして紹介さ

れることになったのです。

では、日野春學舎で何が行われたのか？
そしてその意義は何か？ それを紹介し発信するためのイベントが、今回の「アール・ブリュット in 山梨」でした。

通常、美術展を開催するには相当の労力が必要とします。唯一無二の価値を持つ美術品の扱いには細心の注意が払われるのです。今回の展覧会に際しても、一般の美術品と同じか、それ以上の配慮がなされました。

集約以前、今回出展する予定の作品は、それぞれ日本全国の作家や施設等、作品を管理する人たちの手元にありました。それらを直に、個別にフランスに送ったのでは、作品個々の状態確認ができません。また、状態の良い作品の中から、今回の展覧会のコンセプトや全体構成にも配慮しながら、統一見解の下で展示にふさわしい作品を選定しなければなりません。そのため、作品を一ヶ所に集め、集中的に作業することが必要でした。

作品は、到着するとすぐに梱包を解かれて破損の有無が確認されました。無事に到着したことが確認されると、次に展示作品が選定

され、出展する作品は一点一点についてさらに細かい傷や汚れ等のチェックがなされます。その結果を先方でも分かるよう全て英語で記録した後で、作品は移送に向けて厳重に保管されました。6月下旬から7月下旬にかけて、日野春學舎の2階の図書室と隣り合う3教室では、それらの一連の作業が黙々と進められていきました。（写真1）



（写真1）集約作業風景

冒頭でも記したとおり、集められた作品は1,000点以上。数が多い上に、屏風のような大きな絵画から小さな立体作品まで形態も多様で、当然のことながら美術品を扱うための専門的な知識や技術も必要でした。そのため、

長年障がい者アートに取り組んで経験を積んできた滋賀県のグローや東京の愛成会をはじめ、北海道、名古屋、岐阜、佐賀、鹿児島の法人から専門スタッフ10名以上が集まって作業にあたったのです。

「単調かつ緊張を強いる作業が延々と続き、気が遠くなるようだった。」(瀧澤聰氏談)とのことですが、この作業を通して、同じように障がい者アートに関わるスタッフ同士の新たな絆が生まれ、連携もさらに強くなりました。そうして、8月4日によくフランスで展示する作品(作家42名、作品920点)を送り出すための下準備が完了したのです。

「アール・ブリュット in 山梨」の開催当日、平成29年7月29日(土)と30日(日)の両日は、このイベントへの参加のために日野春學舎に計170名を超える方々がいらつしやいました。作業を行った図書室や教室にて、作品チェックと調書作成の様子や、フランスに送る作品の一部(作家9名、作品25点)を展示して紹介すると共に、記録映画「まひるのほし」の上映と、加えて29日は山梨県立美術館の青柳正規館長とグローの田端一恵

氏に特別講演をしていただき、盛況のうちに終了することができました。また、県内の複数の事業所のご協力により、体育館にて食品や工芸品等の販売が行われ、イベントに花を添えていただきました。

(写真2、写真3)



(写真2) 作品展示会場の様子



(写真3) 講演会(青柳館長と田端氏への花束贈呈)

来場者へのアンケート結果では、「とても満足」または「満足」との回答が併せて約97%ありました。さらに、複数の来場者から、「これも見応えのある作品だったので、もっとゆつくりと鑑賞したい」というご希望も聞かれました。また、今回お越しいただいた方々は決して福祉関係者に偏っていたわけではなく、新聞やテレビの取材もあり、一般の方々も含めて、アール・ブリュットへの興味関心の広がりを感じられました。

今回の「KOMOREBI」展の集約作業及び「アール・ブリュット in 山梨」のイベントによって、「日野春學舎」が拠点となつて障害者のアートをキーワードに全国とつながり、世界ともつながる。さらに、そのことで生まれる新たな連携によって、社会的な認知度や評価も上がる。障がいを持った方々の社会参加が促されて、広く全体に様々なプラス効果が波及していく可能性を感じることができました。本企画にご協力をいただいた皆様に、改めて深く感謝を申し上げます。引き続きご高配を賜ることが叶いますよう重ねてお願い申し上げます。

若手職員宿泊研修会

相談支援事業所 らいむ

井上 加奈

「同世代で合宿やりたいな♪」そんなつぶやきで始まった宿泊研修会。即答で「いいじゃん！絶対楽しいよ！」と言ってくれる仲間がいた。さすがに四十歳以下で男女四十名には引いていたが、さあどうなるか…。入社以来、初の企画。予算、人数、勤務調整、会場、事前準備など、いろいろ不安はあったが、反対の声はなかった。「よし、できる。」

まずは各事業所へ実行委員の招集を依頼。集まってくれたのは、小林瑞樹さん、望月杏沙美さん、竹下廣明さん、清水太紀さん、児玉昌仁さん、穂坂雄太さん、加藤麻記さん、下條英理さんと豪華キャスト。皆さん職場の課題として感じていた事は、「報・連・相」とチームワーク。仕事に対するモチベーションがい

まいち上がらないことだった。グループワークのテーマはすぐに決まった。あとは静と動を織り交ぜ、みんなが積極的に参加できる一泊二日にどう落とし込むか。実行委員で知恵を出し合い、二ヶ月かけて策を練った。

そして迎えた七月一日の朝。見事な土砂降り。日野春學舎のグラウンドが沼と化す中、約束の時間に集まった精鋭達。皆の荷物が濡れないようにと駆け回り、公用車のハンドルをきる男性陣。雨にも動じずいつも通りの女性陣。「これはおもしろくなる（笑）」

向かった先は清里にある八ヶ岳少年自然の家。守屋亮さんの誓いの言葉でスイッチが入る。意思決定支援とはなんぞや？から始まり、それぞれ一年後、三年後のセルフプランを作成。プラン実行のためにこの二日間で行い組むミッションを立て、チームで共有。その後、超難関伝言



ゲームで「報告・連絡・相談」の極意を学び、職場の現状を本音でぶつける。個人要因、環境要因それぞれあるが、明日からでも取り組めるヒントが見えてきた。午後からは体育館でチーム対抗運動会。日頃の運動不足とストレス解消に全力で走・跳・投。慣れない人とも肩を組み、汗と笑顔が光る。天気も回復し、夕暮れからはライトを持って森の中へ。広大な敷地内を散策し、男性陣が優しさでリーダーシップを発揮する。十時消灯。四、五人ずつの部屋に分かれ、二段ベッドで一夜を共に…。鳥のさえずりで高原の朝を迎える。

二日目は朝から仕事中に生じる喜怒哀楽を語り合い、どんな時にモチベーションが上がり、イライラした時はどうやって解決するか、お互いの価値観や切り替え方を情報交換。

そして野外で昼食のカレー作り。薪割りや火起こし、調理の手つきは

さすがの名水会クオリティ。隣のチームを意識しながらも困った時は協力し、さりげない気配りで女子力発揮。おいしくできたカレーをお腹いっぱい食べて、いよいよ研修会も終盤へ。

心地よい疲労感とイキイキとした表情での退所式。「他事業所と交流ができ、新たな出会いや発見の機会となった。」「仲間やチームワーク、コミュニケーションの大切さを実感した。」などプラスの感想がたくさん寄せられ、とても有意義な研修となった。

同じ風呂で汗を流し、同じ釜の飯を食う。大人になると少し照れくさいが、意外と楽しい。縁あって同じ職場で働く仲間。これからプロの福祉職として、お互いに支援の技を磨き、時には励まし、笑い合いながら会心の業務につなげていきたいですね。

最後になりましたが、実行委員の皆様

さん、本当にお疲れ様でした。法人本部並びに各部署の管理者の皆様さん、ご理解とご協力ありがとうございました。そして研修に参加して下さった三十一名の皆さん、次は誰が何を企画しますか？



伝える思い つなぐ農業

多機能型事業所 春の陽

浅井 真

去年十二月六日、日野春樂舎体育館において農福連携研修会が行われた。「障害者施設による農業の取り組み」と題して、利用者さんと共に日々取り組んでいる農作業の様子や、今年度、四月に立ち上げたNPO法人の話をおりまぜて発表した。

発表の準備を進める中で、まず自身が名水会や春の陽の歴史を学ぶ良い機会を与えていただいたと感じた。星の里利用者さんの日中活動の場として、星の里分所という位置づけで始まった春の陽の歴史。一棟のビニールハウスを拠点として、畑の開墾、のほらハウスの建築、野菜の収穫、職員と利用者さんが生き生きとそして和気あいあいと過ごしていた様子が成島さん、今関さん、仁田坂さんから話を聞くなかで感じられ、そんな牧歌的な頃を少しうらやましく思った。家庭菜園ほどの規模から始まった春の陽の農場は、現在「田一町歩、畑三町歩」にまでなった。少子高齢化による農業の担い手不足、

遊休農地拡大が全国的に問題になる中で「うちの農地も管理してほしい」という地域からの声は、今後ますます増えてくると考えられる。そのために名水会では、三年前にスタートした日野春樂舎構想の一つとして農業を軸としたNPO法人の立ち上げの準備を進めてきた。



▲春の陽 NPO を中心とした主な作業場

地域活性と社会に馴染めない方たちの居場所、仕事の場作りを目的としている。去年から地元団体「里くら」の徳永氏に農業指導として週三日、春の陽に来ていただいている。来年度も継続して指導をしていただく予定となっている。また同じく里くらのデザイナー篠氏に春の陽の商品ラベルのデザイン

を依頼。豆の花や小学校入口の売店に並んでいるのをご覧になった方もいらつしやるかと思う。安全、安心、おいしい、そしておしゃれな商品とすることで販売を増やし、利用者さんの工賃増につなげていきたいと思っている。より魅力的な商品を増やすためにも、保護者の方々や職員からアイデアがたくさん寄せられることを期待しています。さて実際の農業のはなしですが、春の陽の農場で作っている主要品目は九品目（米、小麦、大豆、じゃがいも、玉ねぎ、人参、トマト、にんにく、梅）保存性やニーズ、六次産業化の観点からこれらの品目に絞って栽培を行っている。この他にも葉物、果菜類、綿の栽培も少量ながら行っている。今回はこの中から小麦と人参のお話をさせていただきます。

春の陽の作物は全て無農薬での栽培を行っている。そしておいしい作物を作るには、良い土作りをしなければいけない。もちろん科学肥料は一切使っていない。使うのは基本的に二つ①野菜くずと草、鶏とヤギの糞を混ぜて作った肥料②地元の酪農家からエサの藁と交換で頂いた牛糞堆肥だ。これら堆

肥の製造、畑への散布には環境リサイクル班の利用者さんの力が欠かせない。まさに春の陽農場の基礎を作ってくれている人たちである。



▲環境リサイクル班 堆肥作り場

小麦が商品になるまでにはたくさんの工程がある。種まき、草取り、収穫、選別、製粉、袋詰め、シール貼り、配達などがある。すべての作業に利用者さんが関わっており、それぞれができる部分を責任もって担当してくださっている。できた小麦粉はおやつ工房のクッキー、豆の花食堂のうどん、楽一のほうとうなどに姿を変える。ここでも加工に利用者さんや地域の方々の力をお借りしている。藤原製麺にお願い

して作っているパスタの売れ行きも好調。もちろん一般の方への小麦粉の販売も行っている。

人参栽培は里くらの指導を受け、一昨年から本格的に取り組み始めた。小麦と同様にたくさんの方の工程に利用者さんが関わることが出来る作物で、また売れ行きも好調である。現状としては北杜市の給食センター、ひまわり市場、道の駅白州、八王子駅での販売などが主な出口となっている。また今年度法人内にできる給食センター（継続A型事業所）やジュース加工場への食材、加工原材料としての納品を視野に入れ栽培面積を拡大する予定である。名水会は設立当初から「地域」という言葉を大切にしている。利用者さんを施設の中で困うのではなく可能な限り地域の中で生活し地域社会の一員となつてほしい、そんな願いは現在も変わっていない。北杜市は農業と観光が主産業となつている。農業を元気にすることで北杜を元気にそして利用者さんも地域の中で共に働けるようにしたいと考えている。農業は大変だが、共に汗を流し、共に成長していける場作りができるよう一生懸命頑張っていく。もちろん、牧歌的な春の陽も忘れないよう

にしたい。



▲春の陽で収穫し販売している野菜



▲加工した梅ジュースと梅シロップ

春の陽に配属された田原 稔です。前職は装具制作を、その前は北ハケ岳の山小屋で働いていました。

気持ちが急いしまうときは、職場から見える素晴らしい山々を見て心を落ち着かせています。

不慣れで、ご迷惑をおかけしますが、この不慣れな部分をいつまでも忘れずに、人との関わりを大切に、丁寧な支援を心掛けたいと思います。

田原 稔

この度、星の里へ勤務させていただくことになりました、保坂ゆりかです。

マイブームは、健康ランドへ行き岩盤浴へ入ることです。

利用者さんと一緒に笑顔で、楽しく仕事をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

保坂ゆりか

はじめまして。今年からハケ岳名水会で働かせていただいております。

私はかなり人見知りをする方で、また目つきも悪いため黙っていることも印象が悪く見えますが、心の中はとてもおだやかです。何故か話しかけづらいオーラが出てしまっていますが、そのつもりもないので、これからよろしくお願いします。

由井美涼

この度、ハケ岳名水会で働かせていただけることになりました、藤原梨奈です。関ジャニ8と猫と車が好きですこれからみなさんと笑顔で関わられたいなと思います。様々なことを学んで成長していきたいです。よろしくお願いします。

藤原梨奈

半年程前から、星の里で非常勤としてお世話になっておりましたが、この春より正職員として新しくスタートします中山寛之です。

もともと肉面的で人と接することが難しかった私ですが、今は毎日が刺激的で楽しくて、もう一生この職場は離れないと思っています。

以前は製菓の職場、作る方だったのですが、今ではすっかり食べる方がメインです。ボーナスが出たら、自宅のオーブンを新調したいと思っていますので、鈍ってしまった腕を、是非皆様にご活用いただきたい次第でございます。よろしくお願いします。

中山寛之

小林亮太と申します。年齢は38歳です。甲府市内の小学校、中学校、高校を卒業して愛知県の大学に行き、大学卒業後は山梨県で警察官になったのですが、故あってこの度ハケ岳名水会で勤務させていただくことになりました。

福祉や介護の経験は全くありませんが、1日も早く仕事を覚え、利用者のため、名水会のために、頑張っていきたいと思っています。趣味はドライブとツーリングです。また、いつか天体望遠鏡を買って天体観測をしたいと思っています。よろしくお願いします。

小林亮太



平成29年度 新入職員挨拶

4月1日より、ハケ岳名水会の職員として企画事業部でアートを担当させていただきますこととなりました。成島由季子と申します。美術関係の仕事をして参りましたので、アート活動などを通しての作品を広くご紹介できるようにしていきたいと思っています。

甲府出身ですので北杜市の魅力も発見したいと思っています。

アートを通して名水会の仕事に貢献してまいりたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

成島由季子

初めまして、4月から「のはら楽団」に配属されました、宇佐美舞衣です。

埼玉の大学を卒業後、山梨に戻ってきました。好きなことは、旅行と自分のカメラで写真を撮ることです。

一人ひとりと向き合いつつ、日々精進していきます。至らぬ点も多々あるかと思いますが、よろしくお願いします。

宇佐美舞衣

昨年度の9月よりハケ岳名水会の一員として働かせて頂くことになりました。

「春の陽」への所属となり、早8ヶ月が経過しています。豊かな田畑が広がる大地の上で、表情豊かに一日を過ごされている利用者さんのそばで、私自身も楽しく過ごせることが出来ています。これから色々な経験をしていくと思いますが、一つひとつの経験を大切にしていききたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

佐藤達雄

この度、企画事業部に配属となりました、新田千枝です。アート担当として、各事業所の皆様と関わらせて頂くこととなります。福祉のお仕事に携わるのは初めてです。ご指導の程、宜しくお願い致します。

ハケ岳エリアに土地勘がありません。おすすめの食事処を教えてください！！

新田千枝

素敵な題字と絵を
ありがとうございました

題字 佐々木 憲二 様 (保護者)

表紙絵 高橋 昌也 様 (春の陽)

苦情解決報告

福祉事業部 中嶋 浩

去る七月十八日に、平成二十九年度の第三者委員会が開催された。昨年度における苦情は各事業所とも1〜2件程度で、利用者同士によるトラブルが中心であった。また、職員による態度や言葉遣いなどによる苦情も挙がっていた。

今後に向けて、統一した様式の利用や、事前の気づきや配慮によって苦情にまで行き着くことがないようにしていくことが大事であるということを再確認する機会となった。

編集後記

「今時の若い奴はなあ・・・」

心当たりはないだろうか？一度は言ったことがありますよね。最近、そんな若者の活躍が目立っていることに驚かされる。卓球、水泳、陸上競技、中でも将棋の藤井総太四段の活躍は世界中を驚かせた。30年破られなかった公式戦の連勝記録を29まで伸ばしたことは衝撃的だった。5歳で祖父母から将棋の手ほどきを受け、将棋教室に通い始めると入門時に渡された480頁もある本の内容を読み書きを学ぶ前にも関わらず1年で会得したという。私は30年前に28連勝した人物に注目した。神谷広志八段、56歳。藤井四段とは41歳差である。そんな神谷八段が連勝記録に並ばれた際にこう話した。「僕はまぐれで勝った28連勝、でも彼は実力で勝った28連勝、比べものになりません」更に彼は「どうせならもっともっと連勝記録を更新してほしい」とまで言った。その「謙虚さ」と懐の深い人柄に心を奪われた。将棋のゲームセットは敗者が自ら「負けました」と負けを認める。スポーツにはない「美学」をこの歳になって教わった気がする。これからは「今時の・・・」ではなく「これからの若者」に大いに期待しよう。

錦

地域という大きな家族

社会福祉法人 八ヶ岳名水会

法人本部：〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

事務局：〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条 1237-3

日野春學舎(旧日野春小学校)

ホームページ：http://www.y-meisui.or.jp/

電話：0551-32-0035 FAX：0551-32-6351

メール：meisuiikai@y-meisui.or.jp

広報委員会

錦見祐治(陽だまり) 廣瀬政光 穂坂雄太(以上菜の花) 遠山 萌 小松寛明(以上星の里)

高柳 優(春の陽) 由井美涼(のはら楽団) 魚多和輝(ぼーら) 立川瞳(相談支援)

谷戸道彰(企画事業部) 浅川恵美 小田切奈保(以上法人事務局)

